科目名 文化と社会(Culture and Society)											
学 年	学系	*(コー	-ス)	単	位 数	必修 / 道	選択 招	受業形態	開講時	期終	時間数
第4学年	経営	情報学	≐科	学修	1 単位	必修		講義	後期] 4	5 時間
担 当 教	員	【非	常勤】請	┃ ┃							
学習到達目標 ①時代とともに変化する音楽・美術などの文化活動について、歴史的観点から説明できる。②時代とと											
科目の到達 目標レベル	もに変	変化す	る音楽・身	美術など(・美術などの の文化活動: 文化の多様!	が社会にし	かに影響	を与え、ま	た人々の生	生活をいか	に反映し
到達目標 (評価項目)	優		達レベル 3安	の I	良好な到達し 目安		最低限0)到達レベ. 目安	ルの	未到達レイ 目安	
到達目標①	文化: て、歴 な基礎	や美術活動の を史的を と と と と と と と と と と と り に と り に り に り り り り	など人間)変化につ 観点から 記識をもと できる。	か 詳細 て、 こ論 な	楽や美術なる 化活動の変 歴史的観点 基礎的知識なできる。	ビ人間の 化につい ほから詳細	文化活動 て、歴史的	術など人間 の変化につ 的観点から 的知識をも	Oい 文化 6割 て、 らとに の基	は や美術な に活動の変 歴史的観点 基礎的知識 きない。	ビ人間の 化につい iから6割
到達目標②	らどの また。 てきた 基礎に	りような 人々の こかにつ	活動は社 影響を受 生活を反映 さいて、詳 をもとに論 きる。	け、 らと 映し また 細な てき 理 基礎	間の文化活動でのような影響に人々の生活をたかについきたかについきためについきためについきない知識をもまる。	響を受け、 を反映し て、詳細な	らどのよう また人々(てきたか)	化活動は社 な影響を受 の生活を反 こついて、6 知識をもとに	け、 らど 映し また 割台 てき こ説 基礎	の文化活動のような影響 のような影響 人々の生活 たかについ 動力識をもない。	響を受け、 を反映し て、6割の
到達目標	文化の多様性を認証 互いの文化を尊重す との大切さについて 細な基礎的知識をも 論理的に説明できる			るこ 互いの文化を尊重するこ、詳との大切さについて、詳とに 細な基礎的知識をもとに			文化の多様性を認識し、 互いの文化を尊重するこ との大切さについて、6 割台の基礎的知識をもと に説明できる。 文化の多様性を認識し 互いの文化を尊重する との大切さについて、6 台の基礎的知識をもと 説明できない。			享重するこ いて、6割	
学習・教育到達	重目標		F3)4)	J	JABEE基準	1(2)		(a)	
				;	達成度	評 価 (%	6)				
評価 指標と評価割合	西方法 		中間試験	期末・ 学年末 試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			40	40		20					100
知識の基本的な【知識・記憶、理解		l	0	0		0					
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】			0	0		0					
汎用的技能 【 】											
態度·志向性(人間力) 【 】											
総合的な学習経 創造的思考力 【 】	験と										

	関連科目、教科書および補助教材				
関連科目					
教科書	はじめての音楽史(片桐功ほか著 音楽の友社)				
補助教材等					

学習上の留意点

授業では音楽を中心にすすめていきますが、美術や文学など同時代の他の芸術についても触れていくようにします。実際に 代表的な作品の一部に接して、音楽という人間の根源的な営みのひとつに対する認識と造詣を深めると同時に、豊かな教養 を身につけましょう。授業は板書とプリントを使いながら丁寧にすすめますので、しっかりノートをとって復習に役立て、試験に 備えて下さい。

ポートの書き方や内容については具体的に指示しますので、自分の頭で考え、力をつくして作成して下さい。厳しく評価します。

担当教員からのメッセージ

この授業では、我々のいまを取り囲んでいる音楽が西洋音楽を基礎に成り立っていることを知り、古来の伝統音楽にも触れ つつ、日本が西洋音楽をどのような過程で受容してきたかを学びます。文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重すること の大切さを理解して、これからの時代を担っていく技術者として豊かな人間性を育み、社会に貢献する自覚と素養を培うこと を目指してほしいと思います。

授 業 の 明 細

			1
	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
4	ガイダンス はじめに 西洋史 I	・シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解できる。 ・西洋音楽史のはじまりと、古代ギリシアの歴史と 文化について理解する。	教科書の該当箇所をあら かじめ読んでおく。学習し た内容を復習する。
2	西洋文化史 I	・中世の音楽と文化について理解する。	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおく。学習した内容を復習する。
3	西洋史Ⅱ	・15~16世紀の歴史について理解する。	プリントにあらかじめ目を 通しておく。学習した内容 を復習する。
4	西洋文化史Ⅱ	・ルネサンスの音楽と文化について理解する。	教科書の該当箇所をあら かじめ読んでおく。学習し た内容を復習する。
5	西洋史皿	・17世紀の歴史について理解する。	プリントにあらかじめ目を 通しておく。学習した内容 を復習する。
6	西洋文化史Ⅲ	・バロック時代の音楽と文化について理解する。	教科書の該当箇所をあら かじめ読んでおく。学習し た内容を復習する。
7	西洋史Ⅳ	・18世紀の歴史について理解する。	プリントにあらかじめ目を 通しておく。学習した内容 を復習する。
8	中間試験	•	
9	試験返却・解答解説	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。	試験でできなかった部分を 復習する。
10	西洋音楽史Ⅳ	・古典派の音楽と文化について理解する。	教科書の該当箇所をあら かじめ読んでおく。学習し た内容を復習する。
11	西洋史Ⅴ	・19世紀の歴史について理解する。	プリントにあらかじめ目を 通しておく。学習した内容 を復習する。
12	西洋文化史V	・ロマン派の音楽と文化について理解する。	教科書の該当箇所をあら かじめ読んでおく。学習し た内容を復習する。
13	日本音楽史I	・日本音楽史の始まりと伝統音楽について理解する。	教科書の該当箇所をあら かじめ読んでおく。学習し た内容を復習する。
14	日本音楽史Ⅱ	・伝統音楽と西洋音楽の並存について理解する。	教科書の該当箇所をあら かじめ読んでおく。学習し た内容を復習する。
15	試験返却•解答解説	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。	試験でできなかった部分を 復習する。
	*	45 時間	
		30 時間	
		15 時間	